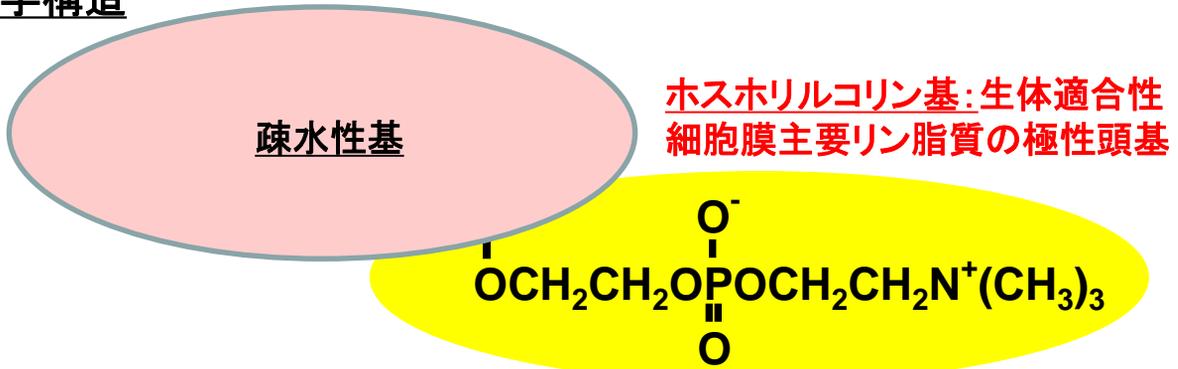


Lipidure[®]-SF

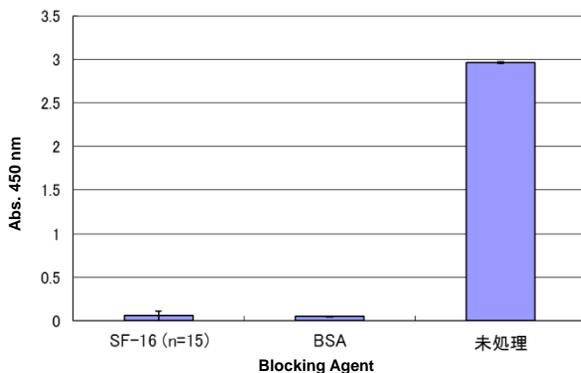
Lipidure-SFは、生体膜を構成するリン脂質の極性基である**ホスホリルコリン基**と疎水性の長鎖アルキル基を有する界面活性剤です。

化学構造

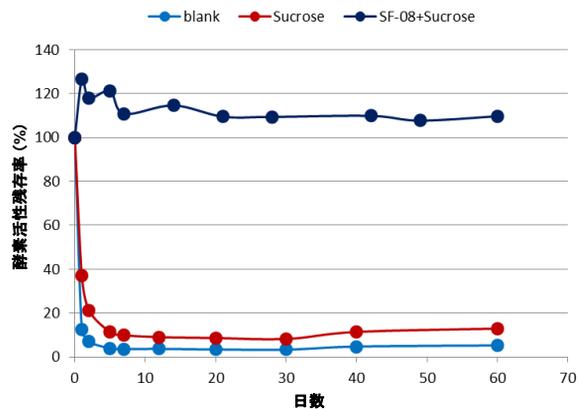


試薬への添加剤として使用することにより、試薬成分および検体成分の**非特異的吸着の抑制(ブロッキング)**(SF16)、**蛋白質の安定化**(SF08)を行うことが可能です。

・非特異的吸着の抑制 (ブロッキング)



・蛋白質(POD-IgG)の安定化



品種	鎖長(n)	CMC (wt%)	製品形態
Lipidure-SF08	7	0.1	5wt% aq.
Lipidure-SF16	15	0.0015	1wt% aq.

*鎖長(n)の異なるサンプルにつきましても、対応可能です。

実験例

・非特異的吸着の抑制（ブロッキング）

1. D-PBS(-)を用いて、Lipidure-SF16の0.5wt%溶液を調製します。
2. nunc製maxi soap 96F plateに200 μ L/well分注し、室温で2時間、デシケーター内で一晩乾燥します。
3. D-PBS(-)を用いて、3回洗浄します(200 μ L/well)。
4. D-PBS(-)に20000倍希釈したPOD-IgGを100 μ L/well分注し、室温で一時間放置します。
5. ACR kit用洗浄液で4回洗浄します(200 μ L/well)。
6. 発色液100 μ L/well分注し、室温で7分間反応します。
7. 2N硫酸50 μ L/well分注し、Abs. 450 nmを測定します。

・蛋白質(POD-IgG)の安定化

1. D-PBS(-)を用いて、スクロースの20wt%溶液およびLipidure-SF08の0.2wt%溶液を調製します。
2. 1.で調製した溶液を等量混合し、Lipidure-SF08 0.1wt%溶液(10wt%スクロース含有)を調製します。
3. 調製した溶液を用いて、POD-IgGを20000倍希釈し、4 $^{\circ}$ Cの冷蔵庫に所定時間放置します。
4. 所定時間経過後、nunc製maxi soap 96F plateに8 μ L/well分注します。
5. 発色液100 μ L/well分注し、室温で7分間反応します。
6. 2N硫酸50 μ L/well分注し、Abs. 450 nmを測定します。

使用上または取り扱い上の注意

1. 本製品は冷蔵保存とし、使用前に室温に戻してから使用してください。
2. 激しく混和すると泡化しますので注意してください。
3. Lipidure-SF16は、冷蔵保存において析出を認めますが、性能には問題ありません。使用前に加温し、溶解させてから使用してください。

日油株式会社 ライフサイエンス事業部
〒150-6019 東京都渋谷区恵比寿4-20-3
TEL. 03-5424-6771 / FAX. 03-5424-6802